



勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫  
「インドの高速鉄道計画」



日本では急速な都市化が進む中で、東海道新幹線（路線距離 515 キロメートル）が 1964 年に開業しました。それから 60 年以上経ち、インドでもようやく 2030 年頃までには、初の高速鉄道が左下の地図にある路線（ムンバイ～アーメダバード間 508 キロメートル）で走り出すと見られています。

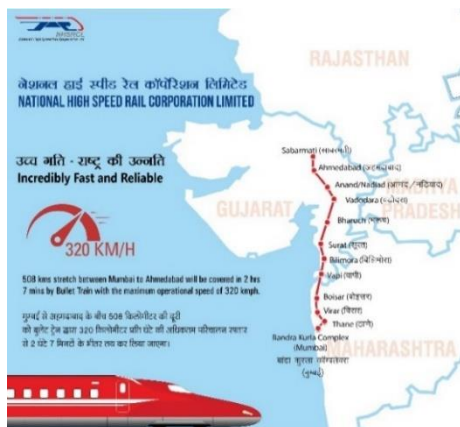


Figure 10-5: - Proposed HSR Corridors and Phasing

インド初の高速鉄道には日本の新幹線技術が使われ、営業最高速度は 320 キロです。現在の最速車両の 140 キロに比べると、まさに「夢の超特急」ですね。地図にある 12 の駅間を現在の 7～8 時間から 2 時間で結びます。インドでは、他にも右上の地図にあるような地域に 13 路線の高速鉄道が提案されています。

モディ首相は、そのインド初の高速鉄道起工式で、「古代、町や文明は川の流域で興りました。その後、それらは高速道路の近くで発展しました。今日、新しい文明がインドの高速鉄道回廊の周りに開花する日がやってきました」と演説しました。この方は本当に人の心を掴む演説が上手いですね。

インドはこれから、情報だけが瞬時に動く時代から、人も物も、お金も、そして人の心も動く時代を迎えようとしています。



高速鉄道建設工事の様子

(出所：ナショナル高速鉄道株式会社)



日本からの工事視察団